

トガリネズミラヴァー
六田晴洋の

私たちの ご近所さん



VOL. 25 「庶路の生き物たち」

桜が見頃を迎えた5月上旬、庶路ダムの周辺へ撮影に行きました。何か目的があったわけではなく、散策のような感じでのんびりと。今回はその時に出会った、春の生き物たちを紹介します。

用意周到のエゾシマリスの冬眠

北海道に元々いるリスの仲間は、エゾリス、エゾシマリス、エゾモモンガの3種。その中で唯一

冬眠するのがエゾシマリスです。冬眠の期間は、なんと最長200日以上。しかし時々目覚めでは、巣穴にため込んでおいた木の实などを食べて冬を越します。そして春、冬眠が明けたばかりの頃はまだ緑が少なく食べ物に乏しいので、この時期のために、地面などに隠しておいたものを掘り出します。

本来、エゾシマリスは雑食性

で、植物の実や花、虫や鳥の卵などさまざまなものを食べます。しかし、冬から春用に貯蔵する食べ物としては、腐りやすい果実や動物質のものは避けて、保存の効く植物の種だけを選ぶそうです。

この写真のエゾシマリスも、何かの種らしきものをくわえていますね。

卵だらけの水たまり

この時期、庶路川の本流は雪解け水が多く混ざっていることもあり、カフエオレのように濁っています。ところが、森の中には澄んだ水たまりがいくつもあります。それは川の水ではなく、ここに直接流れ出る湧き水が溜まっているからです。

そんな水中に、びっしりと産

み付けられた両生類たちの卵を見つけました。無数にある丸いのがエゾアカガエル、長細く巻いてるのがエゾサンショウウオの卵です。このゼリー状の物質の中にいくつもの卵が包まれています。すでにふ化したオタマジャクシが数匹泳いでいました。これらが全

てふ化したら、この水たまりはどんな騒ぎになるのだろうか。楽しみをまた一つ見つけてしまいました。



冬眠明けのエゾシマリス



エゾアカガエルとエゾサンショウウオの卵

PROFILE

六田晴洋 ろくた はるひろ

1986年生まれ。

2021年に白糠町へ移住。

大学卒業後、フリーランスの

カメラマンやディレクターとして野生動物や自然風景を撮影している。<https://rokutaharuhiro.com>

